

サバタイ派とタルムード

[ウィキペディア](#)の「タルムード」には次のように記されています。

「タルムードはユダヤ教徒の聖典である。」という解説が今まで日本では多くなされてきているが、実際のところ**タルムードの権威はラビ（教師）の権威のことでもある**。そのため、後世におけるラビの権威を認めない立場からはタルムードの権威を認めないことになり、タルムードの権威を認めないユダヤ教の宗派も少なからず存在する。

その代表とも言えるのがカライ派で、モーセのトーラーのみを聖典としラビ文書の権威を認めていない。また、**シャブタイ派（サバタイ派）の流れを汲むユダヤ教においては、むしろタルムードを否定する**という立場をとる。」

まず記されている通り、「タルムード」はユダヤ教徒の聖典というよりも**ユダヤ教ラビの聖典であり、ラビの権威のための聖典**です。

問題は「シャブタイ派（サバタイ派）の流れを汲むユダヤ教においては、むしろタルムードを否定する」との記述部分です。このような記述は他の文献にも認められます。しかしこの「**サバタイ派がタルムードを否定している**」との記述内容は**額面通りに簡単に受け取るべきではありません**。タルムードの内容を考慮すべきです。**タルムードは「自らの正体や意図は隠せ」としている**のです。タルムードを信奉する者が「自分はタルムードを信奉している」と自分の正体を表すのはタルムードの教えにかなっているのでしょうか？ タルムードを信奉する者はその事実を秘するのが当然となるでしょう。

また、**サバタイ派にすればタルムードは「実践手引き書」**なのであって、**聖典として崇める対象としては否定している**という意味もあるかも知れませんが・・・。